夕刊
常磐新聞
四月二十五日
發行兼編輯印刷人　伊藤藤次
福島縣平南町六七
發行所　常磐新聞社
日刊但日曜祭日翌日休刊
一部二錢　一ヶ月　三十錢
廣告料　一行　五十錢

クスリ資生堂
小名浜町
電一四七

# 行賞の恩命を拜し
# 榮光は永へに輝く
## 本郡關係の九勇士

今次支那事變に護國の華と散つた名譽の戰死者に對する第一次論功行賞は陸海各功績上申書に基き豫て內閣賞勳局に於て愼重審査を行つてゐたが此程最後的審査を終り二十三日上奏御裁可を迎ぎ、同日午後八時十五分賞勳局から發表された、恩賞に浴した本縣關係勇士は陸軍七名、海軍二名、合せて九名である

○功五旭七兵曹長平子銀之助、入遠野村出身
○功六旭七空航曹長大友保渡邊村出身
○功五旭五步大尉　古泉拔哉　草野村出身
○功七旭八步上等兵　荒井清次郎　四倉町出身
○功七旭八步伍長加藤政英　平市白銀町出身
○功七旭八步上等兵箱崎貢　小名濱町出身
○功七旭八砲伍長塩田良吉　小名濱町出身
○功七旭八砲上等兵綠川信義　田人村出身
○功六旭七步曹長笹川子之太郎　泉村出身

# 郡下產組職員會
## きのふ、小名濱町で
### 終つて富ケ浦に懇親會

石城郡產業組合職員會第七回春季大會は二十四日小名濱町小學校講堂に於て開催された、會員百余名來賓（理事幹事）約二十名出席、決算報告、收支豫算決定、役員改選及び會員の意見發表、福島支部角田主事補の講演あり、終つて富ケ浦公園に懇親會を催した役員改選の結果は左記の如くである

會長三浦五六（小名濱）副會長下山田喜次兵衛（勿來）同宮內篤二（四ッ倉）

# 整理船の轉業視察に
# 北支沿岸を調査
## 出かした機船整理組合

魚族の濫獲防止と沿岸漁業の擁護を主なる目的とし縣機船底曳網漁船百二十雙中四十雙を向ふ八ヶ年間に整理轉業せしむべく去る二十一日の臨時總會でこれが最後的整理案を決定した縣機船底曳網漁業整理組合では整理船舶の轉業に就いて目下業界の注目の的となつてゐる北支沿岸を視察することになり組合より一千圓を支出し縣水產會郡水產會より五百圓、の補助を受け計一千五百圓を以つて三名の視察員を送ることになつた視察は約一ヶ月の日子を必要とするので一人當りの費用八百圓內外を要し他に捻出方を考究中である、視察員として有力視される人々は

五十嵐水產試驗場長（副組合長）加澤一造氏（副會長）水野政次郎氏（委員）

等で來月早々出發の豫定である

# 四倉修港計畫
# 工費減額
## 今明年度十四萬圓

本縣が十三年度に豫算十五萬圓で修築計畫した四倉漁港は政府の國庫補助關係から十四萬圓に減額し更にこれを十三四の兩年度繼續事業とし本年度が七萬九千四百三十一圓明年度七萬五百七十九圓支出施行に變更廿二日の本縣參事會で更正議決した

# 東北物產
# 宣傳大會
## 平市役所で
## 出陳斡旋

東北振興物產宣傳大會は六月一日から十二日まで日本橋三越の五階に開かれるので平市でも地方物產の中央進出を圖り木工品、海產物加工品、其の他織物、金屬製品等の出陳を斡旋することになつた、希望者は市役所に申出で現品を大手町三越物產倉庫福島縣事務所に送ることになるが本大會は即賣を眼目とするので小賣値段を記入の上食料品は試食品を添へること

尙審査の上優良出陳品に對しては

一等一名五十圓、二等十二名二十圓宛、三等三十名五圓宛

の賞金を授與する

# 負傷凱旋の小磯君
# 慰問基金募集公演
## 國婦會で前賣券販賣

小名濱町出身小磯日代吉氏は第一線で奮戰負傷して過般凱旋したが、內地病院に呻吟してゐる同じ傷兵を慰問すべく計画し浪花節行脚を續ける事になりこの資金を造成すべく、五月五日小名濱町磐城座で浪花節の公演をする事になつた、小名濱國婦會では前賣券を販賣するはずであるが、尙は引續き郡內を公演する豫定である

# 保健組合の結核療養所
# 回春園に附屬設置
## 費用六萬圓で病室四十

全國保健聯合組合では〃亡國病撲滅！〃をスローガンとして全國各地區に結核療養所を設置すべく計畫を進めてゐたが漸く成案を見、東北地區の療養所は豐間村縣立回春園に附屬設置することに二十五日決定した、敷地は同園と縣道を距てた山側地帶で費用六萬圓、近代醫學の粹を誇る醫療機具を備へて病室四十、東北地方の工場鑛山における結核患者を收容することになつた

# 好間村の遺族紛爭
## 双方の諒解で圓滿解決

賜金扶助料を繞る戰死者遺族の紛議が圓滿に解決した——好間村北好間權現堂小田炭礦坑夫清野卯吉君は昨年十月北支戰線で名譽の戰死をとげ妻フクさんと同居してゐた母リウさん及び實兒善三郎氏との間に賜金扶助料を繞り紛議が釀され更に近く到着する遺骨引取りに關し双方の空氣險惡になつたので村當局では二十四日午後一時前記三名を加へた調停委員會を村役場に開き左の覺書を取り交して憂慮された遺家族紛爭も無事解消となつた

一、原隊に於ける慰靈祭並に遺骨引取りには三名が出席し旅費は母が負擔する
一、遺骨は最初妻の實家へ二泊後母の家へ
一、一時賜金の金額は二割を建碑費に母の名義で郵便貯金に、通帳は好間村長保管
一、金額の三割を遺兒二名の養育金として妻名義の貯金通帳向上
一、以上殘額の五割を妻と母が折半
一、死亡賜金は妻と母折半
一、遺骨扶助料は妻へ
一、軍隊から埋葬料悔金は母へ埋葬費に充當

社告

明四月二十六日は靖國神社臨時大祭に付き敬意を表し謹んで休刊仕候

常磐新聞社

▲天氣豫報
今晩　東の風晴
明日　東の風薄曇

齒科一般口腔外科
鈴木齒科醫院
院長　鈴木正
小名濱町中町

謹告

來ル四月二十六日靖國神社臨時大祭ニ付敬意ヲ表シ謹テ臨時休業仕リ候

石城銀行組合

## 巷の聲

改善しなければ危險が伴ふ

福島縣產業組合職員の平均月給は二十六圓、本郡の平均額は二十三圓と云ふ薄給れに小名濱町某組合理事のである、月給二十六圓や二十三圓では一家の經濟の樹たない事は說明を俟つ迄もない、それで課せられた仕事は寸分も忽に出來ない重要事務ばかりである、與へないで働かせる危險は火を見るよりも明かだ、殊に產業組合では、やれば出來る一寸ヘイ、と感心させられた、オーさん、オーさん、昨晩はさぞ寢心地が良かつたでせうよ。

税を課す事が當然である、敢て提案する以所である

世は春だ御爺さん達も踊り出す。

福島縣產業組合戀親會の流御爺さん達、浮かれ出したか氣心が一致したと見えや二階に、すつかり若返へり昔とつた杵つかで、若いのを相手に歌つたり踊つたりの盛當には、かつて聽いた事のないやつた事のない管の人達丈けに感心させられ

愛慾の世の中第二號に戰事稅を課してはどうか

某所の訓査に依ると小名濱町各港區丈けで妾宅が五十余軒ある事が發見された、これでは第二號國は支那ばかりでないやうだ、各町を通すれば、恐らく二百は下るまい、と云事である、その內でも丸抱へを半稼ぎと七三なと云ふ世智辛い區別がある、豪勢なのはあべこべで女の方から金を貰いで雇つて置くようなのもあるとか云ふ提案したいのは、今や國家は非常時である、大衆娛樂機關に浸つても戰事稅を課せられる今日、第二號や娛樂機關と見なし、これに戰事特別


和洋金物銅鐵問屋
久
釜
古商屋
平市　電話九番九番

平病院
醫學博士　鈴木定藏
平市大町
電話六四一番

專門店の調製品です
是非御玩味を願ひます
電話四十七番へ（小名濱局向ひ）
杵壽し支店

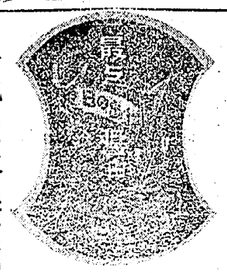
平病院
院長　醫學博士　鈴木定藏
平市十五丁目　電話六四一番
內科　院長　鈴木定藏
小兒科　部長　佐藤幾要司
內臟外科　一般外科　副院長　高橋俊幸
皮膚泌尿器科　部長　鈴木定藏
レントゲン科　物理的療法科　技師　古川元雄
藥劑科　部長　吉本孝平
◉診療時間　每日午前八時ヨリ午後九時迄（夜間診療ニ從事ス）（急患ハ此ノ限リニアラズ）往診隨時—病室完備—入院隨時（自炊ノ便アリ）
▼看護婦募集

性病科
產科
婦人科
午前宅診
午後往診
入院隨意
專門
井坂醫院
平市田町　電話五五九

耳鼻咽喉
毎週月、水、金、午后五時出診
小名濱分院
小名濱町中町小學校前
大和田耳鼻咽喉科醫院
本院平南町（電一七〇）

割烹　吉田屋（十四番）では
東都一流の板前を招聘し
材料を嚴撰し腕に縒した
期節向き一品料理を始めました
食通各位の御試食御批判を乞ふ
割烹　吉田屋旅館
小名濱町海岸
電話十四番
冠婚葬祭の御會席は吉田屋へ、特に強御相談に應じます
下番の女中さん高給で求めます

近郊春の行樂に
鐵道省指定旅館
割烹　小瀧
小名濱町郊外
電話（小名濱）二三番

日の出上醬油
養老味噌釀造元

綠屋商店
店主　志賀要平
千代田生命保險相互會社
富國徵兵保險相互會社
昭和火災保險株式會社
小名濱町電話29
代理店

內科・外科（內臟外科・整形外科）
花柳病科・皮膚科
小名濱町仲町
石井醫院
電話十八番

耳鼻咽喉科專門
レントゲン科
高柳醫院
平市驛前（電三三六）
醫學博士　高柳博明

調味料として美味滋養に富む
花鰹節製造販賣元
味一　高木嘉一郎商店
小名濱町定西電話二〇八番
◉原料鰹千貫貢仲介◉

樋口吳服店
小名濱町中島通り

內臟外科
肛門病科
花柳病科
レントゲン科
皮膚科
泌尿器科
北川外科
◙診療晝夜隨時
【血液檢査每日】
平市北川町（電話四六四番）
醫學博士　北川芳夫
技師　三浦常保